

第6回 制度設計専門会合 事務局提出資料

～卸電力取引の活性化の進め方について～

平成28年4月26日（火）



電力・ガス取引監視等委員会
Electricity and Gas Market Surveillance Commission

第5回制度設計専門会合でのヒアリング回答及び委員コメントまとめ（1/2）

- 多くの旧一般電気事業者では原子力発電所が依然として稼働していないものの、当初自主的取組として表明した入札量よりも多く入札を行っている事業者もいる。電源開発の電源の自主的な切り出しは需給状況や財務状況の厳しさを背景に進んでいない状況。

ヒアリング回答サマリー

委員のコメント

取引所活用の位置づけ

- 自主的取組に基づき卸取引の活性化及び経済合理性を企図した取引を行っており、当初表明した入札量よりも多く入札を行っている事業者もいる。
- スポット市場及び時間前市場を中心に活用しており、先渡市場は、安定した需給状況ではないことから売り入札の活用が困難な面があるとされ、逆に供給力を確保する買い入札を行うこともある市場という使い分けが行われる場合もある。

電源調達及び取引所活用（入札、約定）の状況と今後の方針

- 電源開発の電源を自主的に切り出しているのは3事業者*。まだ電源の切り出しを行っていない事業者の中には、自主的な取組として切り出しの検討を前向きに行っている事業者も存在するものの、需給状況や財務状況の厳しさを背景に切り出しに至っていない状況。
- 原子力発電所の再稼働の見通しが立ちにくく、需給状況が厳しい中、最大限の売り入札に努めているとの意見があった。買い入札については、限界費用の高い火力の焚き減らしによるコスト低減を目的とした取引を積極的に行っているとの意見があった。

松村委員

- 電源開発の電源の切出しに関し、九州電力は、明確に拒否していると感じる。以前は原発の停止による需給逼迫を理由にしていたが、原発が稼働しても切り出さないと述べている。もはや自主的取組みは全く機能しないということが明らかになったと思う。
- 今回の資料をみた上でそのような議論が繰り返されるとすれば、この委員会の役割を果たしていないと思われるのではないか。

圓尾委員

- 財務状況が厳しいことを理由に電源開発の電源の切出しを拒むのであれば、永遠に切り出されないことになる。一般電気事業者と電源開発の契約は、従来法律上の特別な立場にあった者同士の契約であるから、今年の4月で状況が変わることを踏まえ、きちんと考え直さなくてはいけない。

* 第5回制度設計専門会合（H28年3月16日）時点では、中部電力、関西電力、中国電力の3事業者。平成28年4月から東京電力は3万kW、沖縄電力は1万kW切り出している。

第5回制度設計専門会合でのヒアリング回答及び委員コメントまとめ (2/2)

- 基本的には自主的取組を継続しつつ、市場環境の変化にも対応していくとしている。また市場環境の整備という点では、より約定量を増やすことなどを目的としたブロック商品に対する期待や、固定費回収スキームに対する期待が寄せられている。

ヒアリング回答サマリー

現状の取引所での約定状況を踏まえた自社の課題認識

- 余力を全てブロックで売り入札することが結果として約定量拡大にはつながっておらず、また、ブロック数の制約により入札できないこともあるので、ブロック商品の約定可能性を高めるため、買い手のニーズに合わせ、高さ(kW)を考慮したり時間を短くするなどの工夫が必要との意見があった。
- 2016年4月からは1時間前市場が新設されることやスポット市場の運営が24時間365日になるといった変化もあるため、それらへの対応も必要と認識している事業者もいる。

今後の卸電力市場活性化に向けた自社取組方針

- 基本的な方針として、経済合理性に基づき2016年4月以降も卸電力市場を活用し、自主的取組を継続していくことを表明している。
- 1時間前市場の新設やスポット市場の運営が24時間365日になることを受け、これらを有効に活用し、市場の活性化に貢献していく方針。

卸電力市場活性化に向け、市場整備の上で期待したいこと

- スポット市場の売り入札のブロック数の増加及び買い入札のブロック商品の追加にも期待したいとの意見があった。
- 容量メカニズムなどの固定費回収スキームの導入に期待したいとの意見があった。
- 事業者の創意工夫が促されるような市場設計や環境整備に期待したいとの意見があった。

委員のコメント

松村委員

- 太陽光の影響により、スポット市場での取引が1時間前市場に流れることは望ましくなく、予想の誤差を修正するために1時間前市場を活用すべき。
- 買いブロックを増やすというのは合理的な提案と思うが、なぜ今さらこのような話が出てくるのか、不思議である。
- 予備力の取り方についてパターン3としている事業者が3社いるのだが、これら3社については、事務局において重点的にヒアリングをすべき。考え方を統一することには意味があるがパターン3に統一されたら目も当てられない。

岩船委員

- いつまでもこのような議論をしていても実益がない。本当に実質的にタマを増やしたいのであれば、ジャンプするようなことを考えなくてはいけない。4月から小売の全面自由化が始まることを考えると、遅すぎるくらいである。事務局は、検討をもっと加速させることを検討すべき。

稲垣座長

- 卸市場の活性化は大事な大枠の論点である。関係者が協調して進めていかななくてはならない。

② 卸電力市場活性化に向けた取組方針

これまでの議論及び今後の進め方 - 卸電力取引の活性化

- 前回及び今回の事業者へのヒアリングに加え、事務局が平行して行っている旧一般電気事業者への個別ヒアリングの内容も踏まえ、次回以降、今後の卸電力取引の活性化等について議論していきたいと考えている。

第5回制度設計専門会合

事業者ヒアリング（旧一般電気事業者）

- 取引所活用の考え方、現状認識と今後の方針
- 卸電力市場活性化に向けた取組方針 等

今回 第6回制度設計専門会合

事業者ヒアリング（新電力、電源開発、JEPX）

- 取引所活用の位置づけと活用状況
- 取引所の運用面における改善策
- 取引所、卸電力市場活性化に向けた課題認識と期待 等

旧一般電気事業者への個別ヒアリング （委員会事務局にて実施）

- 入札制約、予備力の考え方（パターン①～③）、限界費用の考え方
- 取引所活用状況（入札・約定）
- 電源開発の電源を切り出すための要件 等

第7回制度設計専門会合以降

- ① 事業者ヒアリングや個別のヒアリングを踏まえた自主的取組の改善策
- ② 卸電力取引所の運用面の改善策
- ③ 卸電力市場に影響を及ぼすと考えられる諸施策の紹介（FIT再エネのJEPXへの供出等）
- ④ 諸外国における卸電力市場の変遷



- ① 自主的取組の実態についてデータから分析・評価（2015年10月～2016年3月期のモニタリングレポート）
- ② 自主的取組の改善策、卸電力取引所の運用面の改善策、卸電力市場に影響を及ぼすと考えられる諸施策の展望を踏まえ、今後の卸電力取引の見通しの考察
- ③ 今後の取組（短期/中期のアクションアイテム）